

# 専門分野

## 成人看護学（講義6単位・実習4単位）

### 1. 成人看護学の考え方

我が国では、医療の高度化、保健・福祉の充実により平均寿命は延伸し、高齢化が進展している。今後生活習慣病や慢性疾患、認知症を抱える高齢者が増加し、医療・介護の需要が増大する状況が懸念される。一方で出生数減少により少子化が進むとともに生産年齢人口の減少が生じ、国の経済や財政に与える影響は大きい。平均寿命の延伸は、疾病や障害とともに生きる期間の延長を示す。疾病や障害と付き合いながら、自分らしい自立した生活を送り、最期まで尊厳を持って人生を全うすることが重要となる。このような状況に対し、看護は適切な保健・医療・福祉が提供されるとともに、「生活の質」が高まるような関わりが求められる。

成人は身体的に発達・成熟し、精神社会的にも他者や社会との相互作用を通して自我同一性を獲得し、家族を養い、社会のなかで役割を果たす存在である。身体的・精神的・社会的に充実した時期である一方で、複雑な社会状況の変化に伴い過度に外部からの刺激を受けると、内部環境にも影響をもたらし、様々な健康障害を起こす可能性がある。また、成人の生活習慣は他者や社会環境から影響を受け、揺るぎないものとなる。よりよい生活習慣は健康的な身体や人格をつくり出すが、不規則で偏った生活習慣は病気を生み出す。長年の経験の積み重ねより生活習慣となったものを変更することは容易ではない。動機付けや行動変容によって健康生活の意義を見出し生活習慣を変更することや、健康障害が生じた場合に回復のための行動が起こせるよう成人を対象とした学習を行っていく必要がある。

成人期においては、今後迎える高齢社会に適応できるよう健康寿命の延伸に向けた関わりが重要であり、健康の維持・増進、疾病の重症化や事故の予防が必要となる。健康を保つための知識、行動や習慣を身につけ、健康課題に適切に対処できるセルフケア能力を高めるよう支援する。同時に急性期医療の場面では、患者の生命を救い、回復期・慢性期を経て安心して生活できる状態までの過程を教授する。また、治療効果が期待できず終末期となった患者に対し、その人が穏やかな最期を迎えられるよう苦痛や不安の軽減、家族に対する看護を学ぶ。

### 2. 目的

成人期の特徴をふまえ、健康の保持増進の為のセルフケア能力の増強をはかる。また、健康問題をもつ対象については、回復を促しそれぞれの健康段階に応じた、看護の役割と機能について理解を深める。また、人生の最期のときを支える為の看護の目的、役割を学ぶ。

### 3. 目標

- 1) 成人期の対象を理解する。
- 2) 成人期における健康問題の現状とその原因を考え、看護の果たす役割を理解する。
- 3) 成人期の健康障害をもつ対象のおかれた状況（経過）に応じた看護が展開できる能力を身に付ける。
- 4) 成人期の対象と家族に対する看護を考え実施する。